

# 鉄鋼概況

## 中国の粗鋼生産 16カ月ぶりに前年実績割れ

鉄鋼エコノミスト 左近司 忠政

7月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は前月末比 0.7%減、在庫率は同 1.7ポイント増加し 121.8%となった。8月の国内粗鋼生産量は前月比 3.5%減、前年同月比では 7.1%増となった。国内高炉大手と英豪系資源大手リオ・ティントは、2010年 10～12月積みの鉄鉱石価格について前期より約 13%下げることによって合意したが、中国での需要減が要因となっている。高炉メーカーと自動車や家電など大手需要家との鋼材価格交渉で、2010年 4～9月期は 25%程度上昇した。中国の8月の粗鋼生産は下旬に減産基調に転じたとみられ、前年同月比 1.1%減と 16カ月ぶりの減少に転じた。8月の世界鉄鋼生産実績（66カ国）は前月比 1.3%減の 1億 1,287万トンと 3カ月連続で減少した。

※※※

### ◆ 8月粗鋼生産、900万トン割れ

鉄鋼連盟が発表した7月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は、前月末比 3万 7,000トン、0.7%減の 491万 4,000トンで、2カ月連続して減少した。在庫率は前月末比、1.7ポイント増加して 121.8%となった。一方、普通鋼鋼材の7月末流通在庫は、鉄連が行なった全国市中鋼材数量調査によると、前月末比 0.2%減とほぼ横這いの 227万 4,000トンとなった。7月の販売量は前月比 6.8%、2万 1,000トン増の 261万 9,000トンとなったために、7月末の在庫率は前月末比 0.8ポイント減の 101.3%となり 3カ月連続しての 1カ月超えとなった。

主要品種の在庫状況をみると、薄板3品（熱延・冷延・表面処理鋼板）の7月末の国内在庫（メーカー・問屋・コイルセンターの合計）は、前月末比 6万 4,000トン増加し、369万 4,000トンとなった。在庫率は 2.01カ月と 4月（2.02カ月）以来 3カ月ぶりに 2カ月超となった。例年、5月末から 6月、7月にかけては減少トレンドをたどるが、今回は増加し、特に熱延の在庫水準は危険水域になっている。また、主要建材製品である H形鋼の8月末全国流通在庫は、新日鉄系特約店組織の「ときわ会」の調査によると、前月末比 2万 4,000トン、10%減の 18万 3,000トンとなった。2カ月連続の減少で、20万トンを 3カ月ぶりに割り込んだ。同社が実施していた 2カ月連続の受注スキップなどが奏効し、4カ月連続で在庫が減少したことに加え、スクラップ高を背景に一部の地区で前倒し発注が行なわれ、出庫が増加したことが主要因となっている。

鉄鋼連盟が発表した8月の国内粗鋼生産量は 889万 9,000トン（年率換算 1億 480万トン）となり、前月比で 32万トン（3.5%）減少した。前年同月比では 7.1%増と 10カ月連続で増加したが、伸び率は 2009年 11月以来となる 1ケタ台にとどまった。月間の粗鋼生産量が 900万トンを下回ったのは 2010年 4月以来で、稼働日数が 31日の月では 2010年 1月以来となる。減少した原因として、電炉メーカーの夏季減産が続いたこととアジアの鋼材市況下落や円高傾向による高炉メーカーの輸出向け生産減、さらには一部製鉄所の生産

トラブルが影響したものとみられる。

財務省が発表した8月の鉄鋼貿易統計によると、輸出(全鉄鋼ベース)は前年同月比4.9%増の355万5,000トンと13カ月連続の前年比増となった。8月としては2002年の335万8,000トンを上回り、過去最高となった。7月には3カ月ぶりに前月比減となったが、8月は前月からは26万トン増加し、再び前月比増に転じた。7月末頃からアジア市況に底打ちの兆しが出始めたことや、概ね堅調な海外鉄鉱需要が牽引して高水準の輸出量となった。8月の鉄鋼輸入は、前年同月比75.4%増の60万4,000トンと8カ月連続で前年を上回った。

8月の国別輸出は、最大向け先の韓国・台湾などアジア NIE's 諸国向けが133万3,000トン(前年同月比6.6%減)と2カ月連続で前年割れだったほか、中国向けも60万トン(同3.1%減)と2カ月連続して減少したが、いずれも前月比では増加となった。ASEAN 向けは94万5,000トン(同14.8%増)と前年に回復が遅れていたことから、増勢が続いている。アジア以外では、米国向けが12万8,000トン(49.3%増)、中東向けが10万4,000トン(同30.1%減)、EU向けが4万6,000トン(同2倍)、ロシア向けは3万7,000トン(同104倍)だった。国別輸入では、アジア NIE's から29万4,000トン(同43.0%増)、中国から10万5,000トン(同47.6%増)、ロシアから2万8,000トン(同3.7倍)だった。

#### ◆10～12月積み鉄鋼原料価格値下げ

新日本製鉄、JFE スチールなど日本の高炉大手と英豪系資源大手のリオ・ティントは、2010年10～12月積みの鉄鉱石価格について前期より約13%下げる(トン約127ドル)ことで合意した。その他の資源大手である伯ヴァーレや英豪系 BHP ビリトンとも同水準で決まる見通しである。また、原料炭大手である豪 BMA との間で、同じく10～12月積みの原料炭(強粘結炭)価格を前期比約7%安のトン209ドル(本船渡し)とすることで合意した。ともに、世界最大の鉄鋼生産国である中国での需要減が要因となっている。これらの原料安によって10～12月期の原料コストは、7～9月期に比してどの程度下がるのかは、①原料在庫のキャリーオーバー、②上昇しているマンガン・モリブデンなど合金鉄など副原料価格、③円高など為替の推移——など不確定な要因が多い。

2010年度からの原料価格の決定方式が四半期毎に山元との間で決められることになった結果、高炉メーカーと自動車や家電など大手需要家との価格交渉は、それまでの年度毎の決定から半期毎に決定されるのが主流となり、現在2010年4月から9月までの価格が確定している。確定している価格は、2009年度価格は前年度十数%下落したのに対して、2010年4～9月期は25%程度上昇した。次回の価格決定期間は2010年10月～11年3月となるが、2011年1～3月期の原料価格は2010年11月頃に目処が立つ。2010年10～12月積みの価格安が次回の鋼材価格決定にどのような影響を及ぼすか関心の持たれるところである。

#### ◆中国の8月粗鋼生産、16カ月ぶり減

中国国家统计局が発表した8月の鉄鋼生産は、銑鉄が4,884万トン(前年同月比0.9%減)、粗鋼が5,164万トン(同1.1%減)、鋼材が6,965万トン(同11.5%増)であった。銑鉄の前年割れは2カ月連続、粗鋼の前年割れは2009年4月以来16カ月ぶりである。8月の粗鋼生産は前月比10万トン減にとどまり、1日当たりの粗鋼生産は166万6,000トンと前月比0.2%減であった。8月に入ってから鋼材市況がやや持ち直したほか、国営大手ミルが鉄鋼再編の主導権を巡って減産に消極的な動きを見せ、減産気運はやや後退した様子を見せた。中国鋼鉄工業協会(CISA)が発表した8月上旬までの中国の1日当たりの粗鋼生産

は前月比増のペースであったが、国家統計局発表の8月の生産実績が前月比減ということは、下旬には減産基調に転じたものと見られる。

9月以降は政府による鉄鋼メーカーへの電力供給の停止などを通じた生産規制策が河北省などで本格化しつつあるために、中国の鉄鋼生産は再び抑制傾向へむかう可能性が高い。中国金属情報センターによると、9～12月の粗鋼生産は月産4,500万トンで推移する公算が大きいとされる。そうなれば、2010暦年の中国粗鋼生産量は6億600万トンと当初見込みより下振れし、2009年（5億7,000万トン）比で3,600万トン、6.3%増にとどまる。

### ◆ 8月世界粗鋼生産、3カ月連続前月比減

世界鉄鋼協会（WSA）が発表した8月の鉄鋼生産実績（66カ国）は、前月比1.3%減の1億1,287万トンと3カ月連続で減少した。中国、中国以外での生産ともに3カ月連続しての減少となった。前年同月比で見ると、4.2%増となり、11カ月連続して前年同月実績を上回ったが、中国の生産量が頭打ち（同1.1%減）となって、伸び率は一段と低下した。欧州や米国で生産回復の動きが続いているほか、インド、ブラジルなど新興国の生産が好調だったことで全体ではプラスとなったが、金融危機以降の回復過程で最も低い伸び率にとどまった。

表－1 世界粗鋼生産

（単位：千トン、前年同月比・前年同期比・前月比％）

	8月	前年同月比	前月比	1～8月	前年同期比
フランス	858	( 4.2)	(△33.5)	10,369	( 33.1)
ドイツ	3,453	( 17.1)	(△0.5)	29,670	( 52.3)
イタリア	1,090	( 45.4)	(△52.0)	16,780	( 36.7)
スペイン	1,120	( 0.2)	( 12.7)	11,017	( 24.9)
イギリス	790	(△3.1)	( 1.3)	6,717	( 11.0)
EU27カ国計	12,137	( 15.4)	(△12.0)	115,634	( 37.5)
トルコ	2,547	( 11.3)	( 7.2)	18,419	( 11.1)
他欧州計	2,834	( 8.5)	( 7.5)	21,009	( 13.5)
ロシア	5,600	(△6.0)	( 0.1)	43,880	( 15.4)
ウクライナ	2,400	(△10.0)	(△0.2)	21,164	( 11.7)
C I S計	8,710	(△6.1)	( 0.1)	70,414	( 13.6)
カナダ	1,000	( 36.4)	( 1.5)	8,351	( 52.0)
メキシコ	1,380	( 24.4)	( 0.0)	11,116	( 25.6)
アメリカ	6,861	( 23.7)	( 1.4)	54,523	( 56.4)
北米計	9,353	( 24.9)	( 1.2)	74,828	( 50.3)
ブラジル	2,886	( 7.8)	( 1.2)	22,119	( 40.5)
南米計	3,746	( 1.6)	( 2.2)	28,550	( 23.7)
アフリカ計	1,457	( 10.4)	( 4.0)	10,950	( 13.1)
中東計	1,560	( 5.6)	( 20.3)	12,440	( 8.9)
中国	51,636	(△1.1)	(△0.2)	425,774	( 15.3)
インド	5,700	( 6.4)	(△0.9)	44,568	( 8.3)
日本	8,899	( 7.1)	(△3.5)	72,700	( 38.1)
韓国	4,517	( 6.4)	(△1.8)	37,455	( 22.9)
台湾	1,570	( 25.3)	( 0.0)	12,209	( 29.4)
アジア計	72,322	( 1.3)	(△0.8)	592,706	( 17.8)
オセアニア計	744	( 29.8)	( 1.1)	5,454	( 64.3)
66カ国計	112,871	( 4.2)	(△1.3)	931,984	( 21.9)
*中国以外計	61,235	( 9.1)	(△2.2)	506,210	( 28.0)

(資料)世界鉄鋼協会まとめ

66カ国の操業率は73.1%と前月比1.3ポイント低下し、直近ピークだった4月比で9.2ポイント下がった。8月の粗鋼日産量は、66カ国合計で前月比1.3%減と3カ月連続で減少した。中国は0.2%減で4カ月連続、中国以外も2.2%減と3カ月連続で減った。66カ国の日産量は直近ピークの5月比で9.4%の減少となった。1～8月の累計生産量は、66カ国計で9億3,198万トンと前年同期比21.9%増加した。中国は4億2,577万トンで15.3%増、中国以外では5億621万トンと28.0%伸びた。 □